

事例番号:310292

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

1 回経産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 36 週 0 日 超音波断層法で児頭大横径 9.27cm

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 3 日

14:00 紹介元分娩機関の超音波断層法で児頭大横径 10.27cm と急激な増大、胎児の脳の側脳室の拡張を認め、胎児脳室拡張の診断で当該分娩機関へ紹介となり入院

4) 分娩経過

妊娠 37 週 3 日

15:37 胎児 MRI で頭蓋内出血を認める

19:26 児の脳室拡大、脳室内出血の疑いで帝王切開により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 3 日

(2) 出生時体重:2773g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.309、PCO₂ 45.0mmHg、PO₂ 21.6mmHg、HCO₃⁻
22.6mmol/L、BE -3.5mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 9 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 脳室内出血、水頭症

(7) 頭部画像所見:

生後 1 日 頭部 MRI で脳室拡大・頭蓋内出血

6) 診療体制等に関する情報

〈紹介元分娩機関〉

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名

看護スタッフ:助産師 1 名、看護師 2 名、准看護師 1 名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名、小児科医 1 名、麻酔科医 1 名、研修医 1 名

看護スタッフ:看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、胎児期に発症した頭蓋内出血であると考え。

(2) 胎児頭蓋内出血の原因は不明である。

(3) 胎児頭蓋内出血は妊娠 36 週 0 日から妊娠 37 週 3 日までに発症したと考える。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

(1) 妊娠中の管理は一般的である。

(2) 搬送元分娩機関において、妊娠 37 週 3 日に超音波断層法にて胎児脳室拡大を認めたために、当該分娩機関に紹介したことは一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 37 週 3 日に胎児脳室拡大、脳室内出血の疑いの診断で、緊急帝王切開を行ったことは医学的妥当性がある。

(2) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

(3) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

新生児管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 紹介元分娩機関

なし。

(2) 当該分娩機関

なし。

2) 紹介元分娩機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

(1) 紹介元分娩機関

事例検討を行うことが望まれる。

【解説】重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策等について院内で事例検討を行うことが重要である。

(2) 当該分娩機関

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期の頭蓋内出血に関する疫学、病態について調査研究を行うことが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。